

令和2年度 修了式 式辞

35年ぶりと言われる大雪に見舞われた厳しい冬も終わり、本格的な春の訪れが感じられる今日、令和2年度の修了式を迎えました。

今ほどは、先週火曜日に行われた卒業式の一部を視聴してもらいましたが、どうでしたか。

昨年度に引き続き、在校生が出席しない卒業式となったため、今の2年生は中学校の卒業式を経験しないまま、来年度、自分たちの本番を迎えることになります。準備や後片付けをあんなにがんばったのに、本番に立ち会えないのかという残念さもあったことでしょう。そこで、少しでも卒業式の雰囲気伝わればと思い、ビデオ収録したものを見ていただきました。

小学校のように卒業学年全員による呼びかけは行わない中学校の卒業式。そのメインは、在校生からの「送辞」、そして卒業生がそれに答える「答辞」、そして「卒業の歌」です。在校生代表の西森彩乃さんは、静かな口調で卒業生への尊敬の思いを語り、卒業生代表の城石悠翔くんは、ともにコロナを乗り越えてきた経験を、自信に変えて生きていきたいという希望を力強く述べてくれました。

改めて振り返ると、令和2年度は、私たち人類が、新型コロナという百年に一度の禍に、翻弄され続けた1年でした。おそらく人類の歴史にも人々の記憶にも残ることでしょう。

臨時休校の間、皆さんも自問自答したのではないのでしょうか。学校ってなに？学校が休みだったら、勉強しなくていいの？じゃあ、勉強はなんのため？体験学習や校外学習なくなったけど、やったときの自分とやらなかったときの自分、どこが違うのかな？

あたりまえの日常の中で、あまり考えたことのなかった疑問が次々と浮かんで消えたことと思います。

先生たちも同じです。学習の仕方や行事の持ち方について。いや方法だけでない、学習や行事の意味そのものについて。これほど迷い深く考えた年はありませんでした。やりたくてもできないもどかしさを抱えながら、生徒のみなさんのために何ができるのか。考えられる一番よい方法は何か、懸命に考え続け、格闘した毎日でした。

そして、今、例年どおりではない、「今年ならではの」の大きな成果を収め、いろいろあった1年を終えようとしています。我慢強く賢い3年生、その後ろ姿に素直について行くことで大きく成長した1, 2年生。全校生徒と教職員が、それぞれに苦しみながらも知恵と力を合わせて困難を乗り越え、学校を盛り上げ、ともに成長してきた1年でした。

しかし、がんばってきたのは、ここにいる私たちだけではありません。コロナによる物流の停滞と大雪のために困難を極めた学校の外構工事も、建設会社さんの大変なご努力があったからこそ、予定どおり完成したのです。美しく整えられた前庭、フェンスが輝く人工芝のテニスコート、広大な駐車場。平成29年から足かけ4年かかった岩瀬中学校の校舎改築工事はすべて終了し、この4月、グランドオープンを迎えます。

学校を大切に思う地域の方々、真心を込めて工事して下さった建設会社の方々、工事中の激しい騒音に耐えて学校生活を送ってこられた先輩方、多くの方々の思いと我慢と努力の結晶である新校舎です。今後50年間、君達の子供の代まで使い続けるこの校舎を大切に使用させていただくとともに、美しく立派な新校舎に恥じない私たちとなるよう、これからも理想の学校づくりをがんばっていきましょう！